

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/花・森)

事業所番号	2774600726		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから柏原		
所在地	柏原市堂島町2-14		
自己評価作成日	令和4年1月27日	評価結果市町村受理日	令和4年3月7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々お一人お一人の力が生活の中で生かされるように支援する。入居者の方々の気持ちに添えるように支援する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年2月10日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、大阪府下を中心に21のグループホームを展開し、当事業所は2006年に開設された。事業所前の鯉が沢山泳いでいる長瀬川沿いの「アクアロード」には、童謡を刻んだ円筒の石椅子と木製ベンチが置かれ、地域に因んだカルタのタイルが敷かれて、格好の散歩道となっている。事業所理念に沿って、利用者の「こころ」に寄り添ったケアを心がけ、人の役に立ちたい人にはなるべく役割を持ってもらい、人の世話をしたい人には他の人の話相手になってもらっている。コロナ禍の中でも、玄関のテーブルと椅子で利用者・家族に面会してもらい、事業所内でのカフェや百歳体操は、地域の人の参加が無くても、利用者と職員が協力して継続している。10年以上勤務の職員も数名いて定着しており、明るく優しく丁寧に接してくれると、家族の評価が高い。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各ユニットに貼り日々職員が見て意識できるようにしている。	法人理念を額装して1階玄関に掲示し、重要事項説明書にも掲載している。事業所理念『ご入居者様』『ご家族様』『地域の皆様』と『職員』が『ここ』でつながり『ここ』で支えあえるホームに取り組んでいます」を策定している。理念に沿って、1対1で利用者に寄り添い、思いを汲み取れるような声かけに努めている。	何でも剥がしてしまう利用者が居るため、事業所理念は掲示していない。今後は、玄関や各フロアのリビング・事務所内の利用者の手の届かない所に掲示したり、職員が唱和や携帯するなど工夫して、家族や職員に周知することを望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント・カフェ・百歳体操等を実施し地域の方と交流が続けられるようにしているが昨年はコロナの事もあり施設内に入って頂いていない。外で行えるイベントのみ入居者の方と距離を図りながら行っている。	自治会に加入し、コロナ禍以前は事業所内でカフェや百歳体操を実施して、地域の人に参加していた。昨年12月に、事業所開設15周年祭を駐車場で開催し、利用者と一緒にたこ焼き・ポップコーン・ぜんざいを作り、野菜も用意して手頃な値段で販売し、50名以上の地域の方の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域事業者部会を通じて認知症の勉強会を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中でご家族や市からの意見を申し送りや職員会議等で共有し改善項目は検討している。	コロナ禍のため、令和2年4月から会議は書面開催とし、収束した時だけ会議を開いていたが、令和4年からコロナ禍拡大のため、再度書面開催としている。毎回メンバーと全家族に、利用状況・職員状況・事故報告・研修参加・行事などの運営状況を報告し、電話で意見をもらっている。	今後集まって会議できない場合でも、できるだけ詳しい運営状況の報告書を作成し、会議メンバーと全家族に送付して意見収集し、その意見も含めて議事録を作成し、次回案内と共に配付することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録にて市との情報共有を図り相談事項等はその都度行っている。	市の高齢介護課とは、空き室状況の相談や、コロナウイルス感染やワクチン接種について連絡合っている。ケースワーカーが電話で生活保護受給者の状況を確認したり、ケアマネジャーが介護計画を持参している。市の地域密着型サービス連絡会に参加しているが、コロナ禍で中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止委員会を設置し勉強会を行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を策定し、年2回の研修などで周知している。3か月毎に身体拘束委員会を開催し、高齢者虐待について職員アンケートを行い意識付けている。玄関は安全上施錠しているが、エレベーターと各フロアは行き来自由で、利用者の様子を見て、玄関先や屋上まで職員が付き添って、閉塞感を無くしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての勉強会の実施が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時にはゆっくりと丁寧に行う事を心がけている。その都度不明点等があった時には対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で出た意見等を職員間で共有し改善項目は検討を図る。	コロナ禍の中でも、玄関に丸テーブルと椅子2脚を置いて、利用者・家族に面会してもらい、同時に意見を聞いて家族の安心と信頼を得ている。居室担当が利用者の様子を文書で毎月家族に伝えて、意見・要望をもらっている。家族の話をよく聞いていることが、今回のアンケートでも窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談・日々のコミュニケーションによって意見を聞き改善に努めている。	日々のコミュニケーションや、毎朝の1・2階合同の申し送りミーティング、年2回の管理者との面談などで職員の意見を聞いている。レクレーション・月行事・月勉強会・物品・カフェ・百歳体操などの係と居室担当を決め、職員は分担して運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がステップアップできるよう勉強会や研修会に参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業者部会を通じて認知症の勉強会を発信している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意見も聞きつつ ご本人様が感じておられる事を優先し生活環境や関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは色々な話を重ね情報を共有し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とは丁寧に話を重ねご本人にとってより良い選択ができるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でできる事を上手下手に関係なく職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況等も職員は理解しご本人の訴えなどがあればその都度報告・連絡を行い共有し関係性に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族の希望は面会などを通して行っている。	入居時に、利用者・家族から馴染みの関係を聞いてアセスメント表や基本情報に記録し職員間で共有している。会社の元同僚や近所の人の訪問は、家族の了解を得て受け入れている。百歳体操の参加者と馴染みになった利用者もいる。スーパーや老人会館での催し、大学でのカフェなどに出かけていたが、コロナ禍で途切れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や状況を把握し関係が持てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからの相談はあまりないが来館された際などは対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日々の言葉や行動を申し送りや職員会議等で情報共有しケアにいかせるように努めている。	入居時のアセスメント表や、入居後の申し送りノート・介護記録で、利用者の意向を職員間で共有している。表出しにくい人は、以前の気持ち・行動(話好きなど)や、喜怒哀楽の表情で察知し対応している。人の役に立ちたい人にはなるべく役割を持ってもらい、人の世話をしたい人には他の人の話相手になってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報を聞いたりご本人から聞いて把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々の言葉や行動を申し送りや職員会議等で情報共有しケアにいかせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や問題があった時にはその都度話しあい検討している。	介護記録・ケアチェック表・申し送りノートなどを基に、利用者・家族・医師の意見も取り入れて、長期目標1年・短期目標半年の介護計画を作成している。計画は、評価表で毎月モニタリングし、サービス担当者会議(ケアマネジャー・リーダー2名・職員数名が参加)を開いて、3か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録ではよみとれない事もあるが申し送りや職員会議等で共有は図れているが職員によって把握する事に時間差がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方のニーズに添えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との協働はなかなか行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	意向に添って行っている。受診時には同行している。	本人・家族の納得と同意を得て、殆どの人が協力医療機関をかかりつけ医として、月2回の内科医の訪問診療と、週1回の看護師の健康管理や医療面の助言を受けている。歯科は希望者のみが週1回の訪問診療と歯科衛生士の口腔ケアを受けている。他科の専門医を3名が受診し、職員も家族と一緒に同行して、日頃の状態報告や相談を行って情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護時には情報を共有し何か変化等があった時にはその都度相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会や状態観察を行い病院とは蜜に連絡をとるように心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にお話しはするが状況に合わせて話し合う機会を設けている。	契約時に重度化や看取りについて説明し、家族の意向を確認している。その後、主治医により重度化と判断された場合、家族・医療関係者・職員で家族の意向・希望を再確認して最善の対応をしている。昨年は医療関係者と連携を取りながら、6名を看取った。今後は終末期の体制作りと研修に力を入れたいと考えている。	今後は、契約時にも重度化や看取りについての同意書を得ることを望む。また、医療連携と職員研修を通して、日頃から職員の心構えなどの準備、色々なケースの対応法の習得、チームケアの体制作り、詳細な経過記録の書類作成など、さらに終末期の体制を充実することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時等の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応等の勉強会を行っているが地域の方との防災訓練等はできていない。	年2回(6月・12月)避難訓練を実施している。災害対応の動画研修も行って、日頃から災害に対して話し合い意識を高めている。消防用設備など設備の定期点検も行き、備蓄も準備している。地域の協力体制にできてないが、近隣在住の職員6名が緊急出動できる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スリーロック等の勉強会や高齢者虐待勉強会を通してプライバシーや権利擁護に努めている。	人生の先輩である利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけない話し方や言葉かけなどを心がけている。職員は、日常のケアの中で適切な対応ができているかどうか、「高齢者虐待チェック表」の10項目(うるさい、静かにして、無視する、怒り口調など)でチェックして、その後のケアの改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉や行動等を記録に残し思いがくみとれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間の連絡を密に行い場所や時間にしばられないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得てその方らしくあれるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人ができる事を把握し上手下手に関係なくできる事をできる範囲で一緒に行っている。	献立・食材は業者から調達し、料理専門の職員が賄っている。できる利用者は根菜の皮むき、野菜刻み、盛り付けなどを積極的に行っている。利用者は役割を持つことで元気になり、職員の「ありがとう」の言葉がその人の自信に繋がっている。食事レクレーションとして、利用者の好みの鍋料理やたこ焼・焼きそばなど作っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を通して把握に努めている。ご本人の病気による観察が必要な場合は主治医の指示をうけながら支援していく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。また歯科往診医や衛生士による指示も書面にてうけ職員間で共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の状況にふまえ声かけや時間帯等を変えている。またご本人にとって恥ずかしくない声かけと対応をするように努めている。	排泄チェック表の活用により利用者個々の排泄パターンの把握をしている。あからさまでなく、さり気ないトイレ誘導をし、個々に合った支援をしている。布パンツ使用者は現在5名で、殆どの方はリハビリパンツ・パッドだが、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援している。、過去にリハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の力もかりながら日々の運動や水分量などを考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況やご本人の表情を見てタイミングを見て声かけをしている。	週3回、午前10時から午後3時の入浴を基本としている。時間・曜日は本人のその日の体調や希望で柔軟に対応している。浴槽は少し大きめで、しっかり身体を伸ばして入れる。入浴拒否の人には無理強いせず、職員や日時を変更するなど工夫し、清拭・足浴などで清潔保持に努めている。事業所で判断して、同性介助も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間やパジャマ更衣等その方に合う方法を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報等薬剤表を見て把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状況に応じてできる範囲で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により行えていない。	事業所前の長瀬川には沢山の魚が泳ぎ、両側は整備された遊歩道となっている。毎日の散歩時には季節の花の鑑賞もできて気分転換になっている。夏祭りや百歳体操で近隣の人達と交流していたが、現在はコロナ禍で自粛となり、利用者は事業所内で百歳体操で体を動かし、機能低下を防ぐ努力をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自身でお金を所持されている方がいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあったりご家族の希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーを大きいものにしたり季節に応じて飾り付けをご入居者と作製し飾って目でも見て楽しめる環境作りに努めている。	玄関・廊下・リビングダイニングは、十分なスペースを確保し、採光も良くて明るく、快適な空間となっている。トイレ・浴室の表示も分かり易い。2つのソファで利用者同士が歓談したりテレビを見たり、ゆったりと気持ちよく過ごせるよう工夫している。現在異食者が居るので、できるだけ壁の飾りも高い場所に提示するなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に行き来できたり各居室やソファなど思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものをもちこんで頂いたりご自身で作成されたものを飾ったり居室より違う暖簾をしたりして居心地が良くご自身のお部屋である事がわかりやすいように配慮している。	各居室には、利用者が間違わないように花の名前の表札と暖簾が掲げられ、クローゼット・防災カーテン・鏡付き洗面台・ナースコール・エアコンが設置されている。利用者は第2の我が家として馴染みの家具や調度品・仏壇・家族写真などを持ち込み、従来の生活の継続性を確保して、居心地良く自分らしく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の思うよう行動できるよう配慮し危険があるようであれば職員が添いできるよう支援している。		